

なでしこ通信 第 48 号

《隔月発行》

— 目 次 —

- ★めざす会、「親学」に本格的に参入
めざす会幹事 大津寄 章三
- ★第 2 回親学講演会のご報告
- ★いのち、つないで
むなかた助産院長 賀久 はつ
- ★拉致被害者を救出の愛媛 10 万人署名
ご協力ありがとうございました
- ★良書のお勧め
渡辺京二著「逝きし世の面影」
- ☆事務局から

めざす会、「親学」に本格的に参入 ■ □

めざす会幹事 大津寄 章三

教員仲間と世間話をしていると、百人が百人とも同意してくれる言葉があります。

「生徒より親のほうが問題ですね」

おそらく日本じゅうの教員を悩ませている非行・いじめ、規範意識の薄れ、学力不振、生活習慣の乱れ等の諸問題の大半は家庭にその根をかかえていると言っても過言ではないでしょう。「子は親の鏡」というのは永遠の箴言ですが、学校内で児童生徒を通してしか親に関われない教員集団は、正直に言って隔靴搔痒（靴の上からかゆいところを搔く）のもどかしさを如何ともしがたいのが現状です。

その上、教育をめぐる社会の風潮は長く逆風のただ中にあり続けていました。一例を挙

げれば、私たちが子供のころ日本の一般家庭はまだ貧しく、子供は学校から帰れば家業や家事の手伝いに余念がありませんでした。子供といえどそれなりの役割分担を担い、それが家族を運命共同体へと結びつけていたのです（映画「三丁目の夕日」参照）。いわゆる「家族の絆」とは、「おのおのが分に応じて家庭を支えているという実績」が育んだ信頼感と誇りの別名だったとも言えるでしょう。しかし、社会の変化は子供を家庭内消費者へと変貌させました。多くの便利な機器や技術、経済的余裕や少子化といったライフスタイルの変化は家庭内に子供の独立区を生み出したのです。かくて家族は運命共同体から「ゆるやかな個々のネットワーク」へと移行していきつつあります。

「生産は人を結びつけ、消費は人を孤独にする」といいます。その言葉通りに今やわが国に吹く多くのすきま風は、人と人の直截なつながりが必要以上に希薄化していったことにその原因を求められるのではないのでしょうか。とりわけ、長い年月が育んできた文化や伝統、また常識や美学、先人の知恵が同時に希薄化していったことは、家庭と学校に決定的な栄養とスタミナの不足を招きました。

教育とはその根底におそろしく不易な部分をかかえており、長い試行錯誤の中から改良を加えられつつ熟成を果たすものです。また教育の目的地たる人格の完成は、職種や立場、役割に応じて「らしさ」とよばれる価値や理想型を社会通念として伴うものでした。しかし「らしさ」という言葉が個々の生き方を制限するマイナス・イメージとして喧伝されるようになった昨今、人々は社会や伝統にあるべき自己のモデルを描きにくくなりつつあります。

めざす会はこの風潮を打破するために結成されました。古来より多くの世代が紡ぎ上げてきた「男らしさ・女らしさ」を筆頭とする価値観に光をあて、ジェンダー・フリーという世の絆を流砂のように崩壊させていく思想に歯止めをかけることがその目的だったのです。運動の成果は微々たるものであったかもしれませんが、しかし、多くの方々のご尽力や日本人の良識に支えられ、男女共同参画社会基本法に混入された社会を混乱に導く革命的思想はようやく広く認知され警戒されるようになり始めました。夫婦別姓や男女混合名簿など、まだまだ取り組まねばならない課題は山積しており、今後も予断は許しません。

しかし、めざす会にとって喫緊に取り組まねばならないもう一つの課題は「親らしさ」を取り戻し、子供と家庭に安心と秩序をもたらす活動です。本年二回（三月、七月）にわたって実施した高橋史朗先生のご講演会で提起された「親学」こそ、わが国の教育と家庭を蘇らせる起死回生の一手と確信します。

今後しばらく、めざす会は活動の重点を「親学」の周知と普及に移したいと考えています。どうか会員の方々のご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

第 2 回親学講演会のご報告

3月4日に続く高橋史朗先生の親学講演会「親学の最新動向～親の学びが子供を変える」は松山市民会館小ホールの100席の会場をほぼいっぱいにして開催されました。今回のCDはめざす会事務局か <http://ebisu.bz/shop/detail.php?Id=281> でご購入いただけます。1セット1000円。2セットですと1500円とお得です。

今回は大阪維新の会が準備していた家庭教育支援条例案がメディアに漏れたことから親学が不当なバッシングを受けたこともあり、赤字覚悟でちらしを広く配布致しました。詳細は同封の収支報告書をご覧くださいませ。

また、愛媛県議会から横田弘之、森高康行、大西渡、菊池伸英各県議、松山市議会から土井田学、原俊司両市議、今治市議会から寺井政博、森京典両市議がご参加下さいました。

◇◆いのち、つないで

むなかた助産院長 賀久 はつ

いい結婚というのは、まずは二人にとっていい結婚です。それから周囲が喜ぶ結婚であること。三つ目は産まれてくる子にとっていい、これがいい結婚の条件です。

昭和の時代と比べて随分結婚観が変わりました。いのちに対しても「授かる」から「作る」に変わりました。そして、結婚しても「自分の楽しみ」や「自分の欲望」を第一に考える人が増えています。

そういう価値観の変化の中で家庭が「子育ての場」から「自己実現の場」になりました。その結果、家族がバラバラになったように思うんですね。

女性の脳は赤ちゃんを産んだら賢くなります。なぜならいのちを守るために敏感になるからです。音とか臭いとかわからないと赤ちゃんを助けられないからです。そして、おっぱいをいっぱいあげた人は奉仕的になります。そういう賢くて奉仕的な人が社会に出たら、職場は活性化します。

人間のおっぱいって動物のおっぱいに比べたら薄いんですね。それには意味があります。動物は親が餌を獲ってくる間、長時間、待っていないといけませんから、おとなしく待てるように腹持ちがいい脂肪分の高いおっぱいが出るんです。

人間のおっぱいは脂肪分が少ないのですぐお腹が空きます。お腹が空くたびに赤ちゃん

は泣きます。泣くたびにお母さんはおっぱいをあげます。人間の赤ちゃんは、一日何回も抱っこされ、優しくされることが必要なんです。しょっちゅう抱っこされておっぱいを吸った子ほど優しくなるんですね。

生まれつき水ぶくれができて手当が必要な病気を持った人もいます。こういう人たちはすごく優しい人間になるんですね。お母さんが一日何回でも軟膏を塗りガーゼを貼って手当をしましょう。手塩にかけるということはお母さんの味と匂いをつけること。お母さんの味と匂いを知った人は成長して遠く離れても、どんな困難にも耐えうる力を持つんですね。だから（赤ちゃんは）しょっちゅう泣いていいんです。

「なんで泣くんだらう」なんて、病院の方はすぐ原因分析とかやりますけど、それは品格がないですね。そんなことをしても泣きやみません。「早く泣きやんでね」って祈って抱っこすればいいんです。その時期が過ぎたら必ず成長に向かいます。人間は優しくなるために、頭がよくなるためにそうなっているんですね。

「夫婦が仲良くすることは子育てが8割済んだと一緒に」と言いますからね。お互いの役目をしっかり果たしてください。

(宮崎中央新聞「いのち、つないで」より)

<賀久はつ先生プロフィール>

1937年、千葉県生まれ。千葉大学医学部附属助産婦学校卒業後、結婚を機に福岡へ。1978年に「むなかた助産院」（福岡県宗像市）を開院。日本助産師会理事を務め、平成21年に旭日双光章受章。

◆◇ 拉致被害者を救出の愛媛 10 万人署名

ご協力ありがとうございます

この3ヶ月で20名の方々から467筆の署名が届きました。オール愛媛10万人署名活動の〆切日まで受け付けております。引き続きご協力下さいますようお願い致します。

先号でお知らせいたしましたDVD「拉致～私たちは何故、気付かなかったのか」はトップ6名の中川孝志様、高橋由美子様、武智道子様、大西スミ子様、山本アツ子様、大西えい子様にお送り致します。ありがとうございました。

良書のお勧め ～ 『逝きし世の面影』

渡辺京二著 平凡社ライブラリー 1900 円 (文庫本でこの価格 604 頁)

「私にとって重要なのは在りし日のこの国の文明が、人間の生存をできうる限り気持ちのよいものにしようとする合意とそれにもとづく工夫によって成り立っていたという事実だ」 (本文より)

滅んだ古い日本文明の在りし日の姿を偲ぶには、私たちは異邦人の証言に頼らなければならない、と著者はいう。そして日本人自身は見慣れているために必ずしも自覚せず、西洋人旅行者のみがひとしく注目した明治初年の生活の特徴を、「陽気な人びと」「簡素と豊かさ」「親和と礼節」など(略)に著者は分類し、詳説する。開国当時の日本の社会誌ともいえる本書には、欧米人が驚きをもって記録した、日本という異なる文明の国の「子どもの楽園」、その「信仰と祭」「女の位相」「裸体と性」などが、上手に整理され、解説され、平明な文章で記されている。(平川祐弘氏の解説より)

◇◇◇ 事務局から ◇◇◇

- ◆7月13日のめざす会第11回講演会の収支報告書の裏面の参加者の感想文をご覧ください。感想は親御さんの抱えておられる不安と、現場の先生がたの熱心な取り組みが顕著でした。
- ◆親学推進協会のメールマガジン7月17日号も同封いたしました。発達心理学や脳科学の最新の科学的知見によって、日本の伝統的な子育てのよさが再発見されているにもかかわらず、「伝統的子育て」は実体不明で根拠がないなどという主張があることに驚きます。
- ◆「宮本武之輔」をご存じでしょうか。「歴史から学ぶ日台の絆」(4/1)「パッテンライ!!」(7/21)と2回の研修会をご指導下さいました古川勝三先生は「宮本武之輔を偲び顕彰する会」の会長でもいらっしゃいます。
- ◆7月14日の親学基礎講座は24名のご参加で、まる1日とても楽しく勉強いたしました。講座を2コマ担当された杉本哲也先生(33歳)の落語家顔負けのトークには皆魅了されました。杉本先生は早速、松山市内の私立幼稚園の参観日に「親学」の講演をされることになりました。
- ◆親学アドバイザー認定講座につきましては近々お知らせいたします。
- ◆年会費(1000円)の切れる方に払込取扱票を同封しております。会員1000名をめざしており、現在800名でございます。よろしく願い申し上げます。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0932 松山市東石井 7-1-24 (越智方)

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp (件名を明記してください)